

目録 研究所だより

楠野 晋一

昨年度プロジェクトになりますが、ようやく社会福祉推進事業の「地域協働による多層的・多層的な就労支援・社会的居場所創出ネットワーク構築に関する調査研究」報告書と「貧困などによる子ども・若者を対象にしたセーフティネットの現状とその課題に対する提言に向けた調査研究」報告書が完成いたしました。

報告書の全文は協同総合研究所のホームページ内の研究・仕事おこしの研究プロジェクトをご参照いただければ幸いです。以下、URLになります。

http://jicr.roukyou.gr.jp/research/kenkyujyo_pro.html

さて、ここでは前号では2つの報告書の全体の章立てについて掲載できておりませんでしたのでご紹介させていただきます。

(1) 報告書1 「地域協働による多層的・多層的な就労支援・社会的居場所創出ネットワーク構築に関する調査研究」

序 章 本調査研究の目的と実施内容

第Ⅰ部 生活困窮者自立促進支援モデル事業の現状と課題－アクションリサーチ報告－

1. 千葉県千葉市の生活困窮者自立促進支援モデル事業
2. 京都府京丹後市の生活困窮者自立促進支援モデル事業
3. 大分県臼杵市の生活困窮者自立促進支援モデル事業
4. 新潟県下における生活困窮者に対する

る支援の現状と課題

5. 生活困窮者自立支援モデル事業の5市区比較分析－その成果と課題－

第Ⅱ部 当事者のヒアリング調査から見えてきた生活困窮者支援の課題

1. ヒアリング調査の目的と方法
2. 京丹後市「寄り添い支援総合サポートセンター」
3. 千葉市「生活自立・仕事相談センター稲毛」
4. 青森県「ふれわーく三戸」
5. 排除から立ち上げるプロセスにおける支援のあり方－支援者(相談員)との振り返りから
6. 小括－ヒアリング調査からみえてきた生活困窮者支援の現状、意義、課題
7. 就労訓練と一般就労を結ぶ中間的就労の場－Next Green但馬の事例から－

第Ⅲ部 生活困窮者自立支援事業と地域における多層的・多層的な就労支援・社会的居場所－地域協働による就労創出とネットワーク構築－

1. 生活困窮者自立支援事業における自治体の現状と課題
2. 生活困窮者支援における相談支援のあり方と課題－大分県臼杵市モデル事業の支援ケースを事例として－
3. 「共に働く」協同労働の実践を踏まえて、制度政策のあり方を考える－生活困窮者自立支援制度における「就労」を巡って－

4. 就労準備支援の必須性と事業者支援の必要性

5. 生活困窮者の就労支援と社会的居場所づくり

補論. アカウント3を通して見る英国社会的企業が紡ぎ出す「連帯経済」
-参加の基盤にあるもの-

6. 「福祉力」のあるコミュニティの多様な創出とネットワーク化

終章 日本における生活困窮者自立支援事業の到達点と課題

ーアクティベーション類型の視点からー

資料編 調査検討委員会について

(2) 報告書2 「貧困などによる子ども・若者を対象にしたセーフティネットの現状とその課題に対する提言に向けた調査研究」はじめに

I ヒアリング調査

1. 学び塾「猫の足あと」
2. 子ども村：中高生ホッとステーション
3. 新宿区かしわヴィレッジ
4. NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡
5. NPO法人山科醍醐こどもひろば
6. NPO法人ゆめ・まち・ねっと
7. 十勝びばっと
8. せたがや若者サポートステーション
9. NPO法人フリースペースたまりば
10. 山王こどもセンター

11. 熊本市自立支援プログラム推進(高校進学等健全育成支援)事業

12. 鳥取市学習支援教室すてっぷ

訪問先別ヒアリング調査員による分析と考察

食領域総合考察

ミッションと現実のはざまから

ヒアリングの所見

学習支援調査の分析と考察

II 海外事情調査の報告

1. 虹の青色カエル地域児童センター(1318ハッピーゾーン)
2. 関連施設「楽しい家(か)」
3. ヒアリングからの考察
4. 日本と韓国の比較からの示唆

III 分析と考察に基づく提言

IV 総括

子ども・若者のいる地域社会へー社会福祉の視点からー

「学び」と「育ち」の協同化によるセーフティネットの構築

安定した国家基盤の構築の視点から

V 資料

また、この場をかりて社会福祉推進事業の調査検討委員会の先生方、調査にご協力いただきました方々に御礼申し上げます。今後ともご指導ほどどうぞよろしくお願い申し上げます。